



地方独立行政法人 青森県産業技術センター

## 林業研究所

AITC 青森産技  
<https://www.aomori-itc.or.jp/>  
あおもりの未来、技術でサポート

### 林業研究所的「動的平衡」と2つの変化！

一 はじめに  
令和三年四月、新年度の始まりです。

この時期は、出会いと別れの季節で、人事異動や退職、採用など、多くの職場は業務の引き継ぎや新しい仕事の準備、挨拶回りなど慌ただしくバタバタと忙しい毎日を過ごしているかと思ひます。

ところが、林業研究所の職員十一名は昨年度と全く同じ顔ぶれで、仕事の内容や担当業務もほぼ同じということもあり、旧年度から新年度への業務の移行もほぼ自然体で行われ、淀みなくなめらかに新年度が始まっています。実は、昨年度も人事異動が全く無く、同じ人員と同じ顔ぶれで三年目を迎えることになりました。

そんな令和三年度を迎えたわけですが、以前から、当研究所では公益社団法人青森県林業会議が年六回ほど発行するこの「林業会報」の誌面をお借りして、研究成果の報告や取り組んでいたる業務のPRなどをさせていただいており、原稿は研究員が手分けして執筆しています。

今回は、年度の最初ということになりますが、研究所の厳しい担当部長から年度初めの一本目は所長が担当だから、期限までに原稿を書き上げてくださいと強めに言われ、執筆ネタを探しながら、ようやくキーボードを打ち始めたのが、青森市にサクラの開花宣言が発表された翌日なつてしましました。



所内を動き回るクサギカメムシ

咲き始め、春らしいとても良い季候になつきましたが、同時に嫌われ者のカメムシもあるパクチーのような独特の香りを漂わせながら、元気に動き始めています。



構内に咲くカタクリの花

める季節となりました。

## 二 林業研究所的な「動的平衡」

最初に報告しましたが、当研究所内の人員は、一昨年、昨年、今年と三年間も全く同じ顔ぶれで、一見あまり変化のない職場のようですが、すべての事象は変化していないようで常に変化しております。研究所も常に大なり小なりの変化をしています。このような変化も、「生物と無生物のあいだ」（講談社現代新書、2007年）や『ルリボシカミキリの青』（文春文庫、2012年）の著者であり、テレビなどで「福岡ハカセ」として有名な福岡伸一青山学院大学教授がいう「動的平衡」と言えるのかも知れません（私は林業研究所的「動的平衡」と勝手に解釈しています）。



「福岡ハカセ」が憧れたルリボシカミキリの青

ということで、変化が少ないよう見えてる研究所ですが、新しい年度を迎えており、研究所もかなり賑やかになりました。

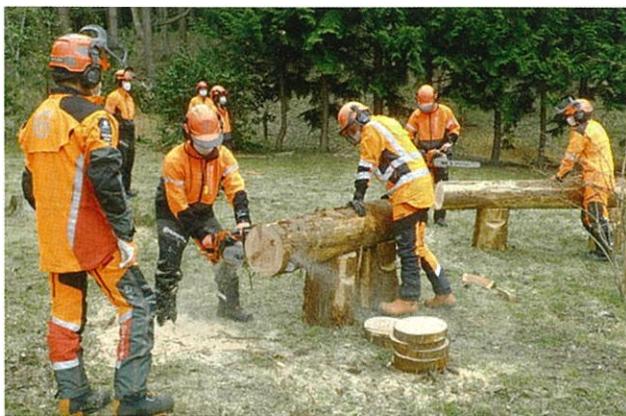
え、研究所関連で二つほど大きく変化したことがありますので、紹介したいと思います。

## 三 林業研究所関連の二つの変化

一つ目は、もう既に御存じの方も多いかと思いますが、当研究所の研修棟において、今年度から県の委託事業で、公益社団法人青森県林業会議（青森県林業労働力確保支援センター）が行う「青い森林業アカデミー」がスタートしました。



青い森林業アカデミー開講式（令和3年4月12日）



一流講師陣を招いてチェンソー安全操作研修



アカデミーの研修拠点となる「林業研究所研修棟」

なったように感じています。それから、もう一つ変わったこととして、昨年度末に、内閣府の地方創生交付金事業を活用して、（株）筑水キヤニコム社製の多目的造林機械「山もつとジョージ」を県内で初めて購入することができました。



下刈りアタッチメントを装着した「山もつとジョージ」

## 四 「山もつとジョージ」ってどんな機械？

「山もつとジョージ」は、（株）筑水キヤニコム社により、平成二十八年から開発検討が始まり、平成三十一年には林野庁補助事業（スマート林業構築実践事業のうち森林作業システム高度化対策）の支援を受けるなどにより、製品化まで約三年を要していました。

